

內科秘錄

士

內科秘錄卷之十一

目錄

婦人

求嗣

胎孕

惡阻

產

胞衣不下

兒枕痛

血暈

子癰

子腫

子淋

子嗽

子痢

子瘡

經閉

附圖

崩漏

乳汁不出

内科秘録卷之十一

水戸 棗軒本間敕和卿 著

婦人

求嗣

胎孕

惡阻

求嗣ハ子ヲ求ルニテ婦人ノ第一專要ト為ル所ナ
リ故ニ古ヨリ不孝有三無後為大ト云ヒ又無子去
之ト云ヘリ然レ氏男女交接ハ人事ニシテ子ノ有
無ハ天ナリ然レハ求嗣ハ人カニテ求ム可キニ非

ス無子ハ唯婦人ヲ責ムレ_レ氏唯婦人ノミニ非ス妻
 ニ子種ノアリテ夫ニ無キモノアリ譬ハ無子女離
 別ニナリ外ヘ嫁シテ子ヲ孕ミ男子無子妻ヲ去テ
 後再三娶_レ氏亦無子者往往アルニテ知ルヘシ女
 ノ子ナキハ先ツ經水ノ不調ニ在リ其經水ノ来ル
 一或ハ期ニ先タチ或ハ後_レ或ハ過多或ハ甚少_{ナク}
 經候ノ時ニ腹痛甚フシテ期日ヨリ永ク下ル者又
 其血色或ハ紫或ハ黒或ハ淡紅或ハ凝血シテ塊ヲ
 成ス者皆孕ヲ成ス一能ハス子宮ノ左右ニ一膜管
 アリ膜管ノ端ニ又膜囊アリ女精ハ此ニ藏ス男精

子宮ヲ射ルキハ女精モ亦此膜管ヨリ宮中へ注キ
一時ノ妙合ニテ胚胎トナルナリ若シ膜管狹窄ナ
ル者或ハ閉塞スルモノ又子宮口ノ狹窄或ハ無口
ノ者皆孕ヲ成サス一女子年長シテ經水来ラス嫁
シテ亦孕ヲ成サス腹脹滿シテ鼓脹ノ如クニ成リ
タル者アリ探宮スルニ子宮混沌トシテ戸口無シ
新手段ヲ以テ療治シテ經水モ常ノ如クニ成リ又
妊娠シテ子ヲ産メリ治驗ヲ續瘍科秘録ニ詳ニス
後合信氏ノ婦嬰全書ヲ讀ムニ曰經水不得出子宮
頸窄或陰戶塞妨礙經水之路此偶見之証西國醫法

將塞處以刀微割以經絡通行為度此術予カ手段ニ
 符合セリ男子ニ子ノ無キハ何ノ故ナルヲ知ラ
 ス古說ニハ精氣清冷ト為シテ固本健陽丹續嗣丹
 等ヲ用ユ無子ハ固ヨリ天ナレ氏若シ誠求シテ已
 ム一無クシハ已上ノ二方ヲ試ムヘシ本邦ニテ温
 泉ニ浴シ孕ヲ求ルハ精冷ヲ温ムルノ意ナルヘシ
 予カ舊識ニ無子ヲ患ヒ年年鹽原ノ温泉ニ浴スル
 一十一年ニシテ初テ孕ミ子ヲ得タル者有リ然レ
 ハ温泉モ試ミテ可ナリ五雜俎ニ以窓閣直馬廐每
 馬交合令婦觀之隨交合則無不孕ト云ヒタルハ求

子ノ權道ナリ

多子ヲ流俗ハ多房ト爲セ氏多房ノ者ハ却テ無子寡
慾清心ニシテ妄ニ交合セス精ヲ儲ヘ時ニ應シ節
ヲ得ル寸ハ子アルヘシ漢書藝文志ニ房中者情性
之極至道之際是以聖王制外樂以禁內情而爲之節
文傳曰先王之作樂所以節百事也ト有リテ房ヲ節
ニスルハ人道ノ一大緊要ナリ此法ヲ失ハサルヲ
求子ノ上策ト爲スヘシ

胎孕ノ期漢說ニ八月經畢テ後六日ノ内ニ在リト爲
シ賀川家ニテハ十日ノ間ニ在リト云ヘリ經水ハ

受孕ノ為ニ下ルモノニテ經候ニナレハ情慾ヲ起
シ經行ク寸ハ愈旺盛ニナリテ受孕ヲ求ムルナリ
草木ノ花ヲ開キテ子ヲ結フヲ貪ルニ同シク天
然ノ然ラシムル所ニシテ私ノ事ニ非ス故ニ經畢
テ後數日ノ間ヲ佳期トスレ氏六日十日ト必ス日
數ヲ定ムヘカラス然レ氏經行ノ後旬餘ヲ過ル時
ハ情慾漸薄クナリテ孕ヲ受ルヲ無シ受孕ノ理ヲ
考フルニ西說ニ左右ノ膜管ヲ喇叭管ト云ヒ膜囊
ヲ卵巢ト名ケ巢中ニ卵子ヲ藏シ男精宮中ヲ射ル
寸ハ喇叭ヲ通りテ卵子ニ注キ數日ノ後卵子自ラ

今離シテ宮中へ歸スト云フ。ナレ氏予之ヲ疑フ
一久シ男精一旦宮中ヲ射テ再々喇叭へ注ク。難
カルヘシ又喇叭ノ子宮へ著ク處ハ甚細クシテ僅
ニ猪毛ヲ通スヘシト有レハ子宮ノ濶キ處ヨリ細
管ニ入ル。一亦甚難カルヘシ其器形ヲ視ルニ女精
ハ宮中ヲ射ル可クシテ男精ハ卵巢へ入ル可カラ
サルニ似タリ又男子感セスシテ女子獨感スル寸
ハ女精汪然トシテ涌出シ腔外へ溢ルニ至ル然
レハ女精モ亦子宮ノ内へ入り男精ト相會シ妙合
シテ胚胎ヲ成スモノナルヘシ胎子最初ハ玲瓏ト

シテ凝脂ノ如ク漸次ニ形ヲ成シ三月ニ滿テ全體
 ヲ備フルモノナリ淮南精神訓ニ一月而膏二月而
 肤三月而胎四月而肌五月而筋六月而骨七月而成
 八月而動九月而躁十月而生形體以成五藏乃形ト
 アリ胎子ノ說ハ之ヲ導祖トス醫學入門ニ胎子月
 月ノ形狀ヲ審辨シタルモ蓋シ此ニ本キタルモノ
 ナルヘシ解體新書名義解及ヒ近來英國ノ醫士合
 信氏ノ全體新論ニ說ク所皆實驗ニシテ從フヘシ
 漢說モ略西說ニ吻合ス三月ニシテ全體ヲ備フル
 ト謂フハ漢蘭及ヒ本邦モ同說ナルハ蓋シ墮胎ニ

就テ實驗シタルナルヘシ

辨胎又驗胎氏云フ妊娠ハ經絶ト惡阻トヲ明徴トス

レ氏惡阻ニ遲早アリ又微劇アリ經絶モ處女孀婦

ノ如キハ秘シテ言ハサレハ證據ニナラヌヲ有リ

新ニ嫁シテ經絶スル者又經水毎月下リ一月モ滯

ラスシテ適經絶スル者ハ妊娠ナリ又顔色憔悴シ

白睛殊ニ白フシテ青キヤウニ見ヘ乳頭紫黯色ニ

變シ乳房ノ中ヲ捫ルニ常ヨリ硬ク大ニナル者ハ

一身ノ血液一ハ子宮ニ歸シテ胚胎ヲ榮養シ一ハ

乳房ニ入テ預メ乳汁ヲ造ラント欲シ官房ノ二器

ノミ血液偏勝シ他部ノ血液不足ニナリ致ス所ニ
 テ卽孕候ナリ按腹スルニハ常ニ子宮ノ形狀位置
 ラ詳ニスヘシ若シ之ヲ知ラスシテ辨胎ヲ求ルハ
 捕風捉影ニ異ナラス子宮ハ肉質ニシテ大サ雞卵
 ノ如ク深ク膀胱ノ背面ニ在リ孕ムト雖氏八九十
 日ノ間ハ尚雞卵ノ大サニシテ之ヲ探リ得ルヲ能
 ハス然レ氏胚胎日日ニ生氣ヲ加フル寸ハ自然ニ
 浮動シテ臍下ト横骨ノ間ニテ或ハ沉ミ或ハ浮ミ
 移轉シテ定マラス先ツ孕婦ヲ仰卧セシメ更ニ大
 息ニ呼吸セシムルヲ數息諸臟ノ安靜ニナルヲ待

テ心下ヨリ徐徐ニ輕ク按シ少腹ニ至ル寸ハ七八
十日ノ胎ハ大サ雞卵ノ如クニ覺ユ此法ニテ十カ
セハラ決スヘシ又按腹スルノ前法ノ如ク數回ノ
後指頭ヲ以テ斜ニ少腹ヲ撞ク寸ハ自ラ胚胎ノ浮
動スルヲ覺フ此法ニ熟スル寸ハ百發百中ニシテ
一モ誤認スルノ無シ和漢共ニ脈ヲ以テ妊否ヲ決
スルノ說アレドモ其言渺茫トシテ遵用シ難シ畢竟
人身窮理ヲ知ラサル故ナリ

婦人平素一二月或ハ三四月ツ、經閉スルノ有ル
者又有身ノ後モ時時經水ノ下ルモノ又惡阻ノ無

キモノ又大ニ肥テ腹ノ皮厚キモノ又小腹ニ癥癖
ノアル者ハ三四月ニ及ヒテモ妊娠ヲ決シ難キ
アリ世ニ孕胎ヲ經閉ト心得或ハ結塊ト為シ又腸
覃ノ類ヲ却テ妊娠ト為シテ大ニ嘲笑セラル、
多クアレハ能ク診法ヲ詳ニシテ失誤ヲナスヘカ
ラス

胎居ハ本邦古來ノ說ニ子及リト云テ十月マテハ正
坐シテ居レ氏産ニ臨メハ乍チ翻轉シ倒首ニナリ
テ出ルト云ハ誤ナリ先哲已ニ其非ヲ辨ス是ハ外
ヨリ妄想シテ言ヒタル了簡ナリ人ハ平生坐立俱

ニ首ヲ上ニスルユ丑胎子モ亦母ト同シヤウニ正
居スルモノト心得タルモノナルヘシ子宮中ハ混
沌タル別世界ニテ天地モナク亦上下モナシ胎子
ハ胞衣水液ノ中ニ在テ少シク游泳シ移轉シ易ク
正斜不定ナレ氏兒頭ハ常ニ子宮口ヘ向ヒテ居ル
ナリ胎子出ヘキ所ヘ向クハ自然ナリ今上下ヲ論
スル寸ハ子宮底ハ下ニシテ子宮口ハ上ナリ然レ
ハ倒首ハ反テ正居ト謂テ可ナリ胚胎ハ草木種子
ヲ土中ヘ植ルニ同シ譬ハ柿核ヲ土中ヘ倒マニ植
エ若クハ横ニ植ルモ芽ハ必ス上ヘ向テ出ルナリ

兒頭ノ子宮口ヘ向クハ此理ニ異ナラス子玄子ハ
胎子大抵五月ヨリ倒首スルト云ヒ西說ニハ六月
ヨリ倒首スルト云ヒタレ氏前說ノ理ヲ以テ考フ
ルニ矢張^{ハナ}初ヨリ倒首スルモノナルヘシ

婦人良方等ニ產候ヲ述テ兒轉或ハ轉頭遲慢等ノ文
アレハ明文ナシト雖氏唐山ニテモ胎子ハ產ニ臨
ンテ頭ヲ轉シ倒ニナリテ生ルヘキモノト心會^{ココロ}本
邦ニテ子及ト云フハ所謂兒轉ノ文ニ本ツキタル
モノナルヘシ

妊娠三四月ニ至ル寸ハ必ス小產シテ一子モ生育セ